

新規事業採択時評価

【ダム事業】

(直轄事業等)

- 糠平ダム再生事業 1
- 太田川総合開発事業 3

新規

事業名 (箇所名)	糠平ダム再生事業		担当課 担当課長名	水管理・国土保全局治水課 奥田 晃久	事業 主体	北海道開発局					
実施箇所	北海道河東郡上士幌町					評価 年度	令和5年度				
主な事業 の諸元	重力式コンクリートダム(同軸嵩上げ)ダム高82.0m(嵩上げ高6.0m)、容量買取、堤頂長310.9m、総貯水容量233,300千m ³ 、有効貯水容量199,900千m ³										
事業期間	事業採択	令和6年度	完了	令和23年度							
総事業費 (億円)	約880										
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景> 十勝川流域ではこれまで、昭和37年8月洪水、昭和47年9月洪水、昭和50年5月洪水、昭和56年8月洪水、昭和63年11月洪水により甚大な被害が発生しているほか、近年においても平成元、10、13、15、23、28年に洪水被害が発生している。</p> <p>昭和37年8月(台風) 被害家屋3,793戸、氾濫面積40,768ha 昭和47年9月(台風) 被害家屋3,013戸、氾濫面積30,729ha 昭和50年5月(低気圧) 被害家屋186戸、氾濫面積2,698ha 昭和56年8月(台風) 被害家屋355戸、氾濫面積7,017ha 昭和63年11月(台風) 被害家屋279戸、氾濫面積366ha 平成元年6月(低気圧) 被害家屋34戸、氾濫面積3,940ha 平成10年9月(台風) 被害家屋286戸、氾濫面積1,907ha 平成13年9月(台風) 被害家屋11戸、氾濫面積298ha 平成15年8月(台風) 被害家屋51戸、氾濫面積369ha 平成23年9月(前線) 被害家屋2戸、氾濫面積38ha 平成28年8月(台風) 被害家屋356戸、氾濫面積1,412ha</p> <p><達成すべき目標> ・洪水調節 <政策体系上の位置付け> ・政策目標:水害等災害による被害の軽減 ・施策目標:水害・土砂災害の防止・減災を推進する</p>										
便益の主 な根拠	洪水調節に係る便益: 年平均浸水軽減戸数:938戸 年平均浸水軽減面積:300ha										
事業全体 の投資効 率性	基準年度	令和5年度									
	B:総便益 (億円)	7,179	C:総費用(億円)	519	B/C	13.8	B-C	6,660	EIRR (%)	20.5	
感度分析	残事業費 (+10% ~ -10%) B/C(12.6 ~ 15.3) 残工期 (+10% ~ -10%) B/C(13.4 ~ 14.3) 資産 (-10% ~ +10%) B/C(12.5 ~ 15.2)										
事業の効 果等	・既設の発電ダム(糠平ダム)の堤頂嵩上げと合わせて、利水容量の一部を洪水調節容量に振り替えることで、約55,500千m ³ の洪水調節容量を確保し、治水機能を付加する。 ・河川整備計画の目標流量規模の洪水において、最大孤立者数(避難率40%)約7,200人、電力停止による影響人口約9,400人の被害が解消されると想定。 ・河川整備計画目標流量規模の洪水を想定した場合、浸水世帯数約32,100世帯、浸水面積約20,400haの被害が想定されるが、糠平ダム再生事業により浸水被害が早期に軽減される。										
その他	<第三者委員会の意見・反映内容> 予算化については妥当である。										
	<都道府県の意見・反映内容> 新規事業採択時評価に係る「糠平ダム再生事業」の予算化について同意します。 十勝川流域では、平成28年の洪水や気候変動に伴う降雨量の増大を踏まえ、更なる治水対策が必要と認識しており、道民の安全で安心な暮らしが守られるよう、早期に治水安全度の向上を図っていただきたい。 なお、事業の推進に当たっては、関係機関と十分に協議するとともに、環境への配慮や総事業費の圧縮などに努めていただきたい。										

糠平ダム再生事業 位置図

事業実施箇所



